



<http://kinkifukusha.jp>

複写 NEWS

No.233

本紙は組合員様に組合活動を出来るだけ詳しくお知らせし、よりご理解をしていただく目的でお届けしています。是非ともお読みください。

発行:近畿複写産業協同組合
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1丁目5-6
TEL06-6201-4766・FAX06-6201-4768
発行責任:楠本雅一
監修責任:桑田靱比古
編集制作:小野恵美子
問い合わせ:knk-fuku@kinkifukusha.jp



—近畿複写産業協同組合の皆様へ—

新生・複写連への思い

日本複写産業協同組合連合会

会長 森下修至

◆はじめに

このたび日本複写産業協同組合連合会の会長という大役を命ぜられました森下でございます。「複写連改革の手がかりを」という大きなテーマを山田前会長から仰せつかり、その取り纏め役としてこの2年間お仕事をさせていただいてきました。そのバックボーンには、貴組合理事長楠本様、さらに佐々木様、前理事長の桑田様、福味様、相談役であられた六藤様さらには401K業務でお仕事を共に進めてきた河村様など多くの貴組合所属員の方々の実行力とそのパワーそして心の支えがあったからに他ならないところです。いろいろな形でご協力を戴いたおかげで、改革の道筋が、僅かながら見えてまいりました。いよいよその実行段階となりました。

日本複写産業協同組合連合会という名称自体、大変大げさに見え、いかにも業界団体の要という印象を与えがちです。連合会という組織が行っている具体的な事例が少ないという事実もあり、地域組合が行っているような施策とは違い、存在そのものが良く理解されていないという実態は、全国の所属員の方々にも同様に思われていると感じています。

それだけに、現在の政治空白や厳しい経済環境の中で、これからの複写業がどのように変革し、その中で各地域組合や個々の所属会社が生き残り、さらに進化していくことができる道を創ることが、いま連合会という全国組織に与えられた課題です。

ご存知かどうかわかりませんが、連合会という組織は、事務局員1名で構成され、煩雑な事務を処理するだけで手一杯というのが現状です。本来であれば事務局に長がいて、様々な施策を具申し、それを多くの役員が企画し実行するという姿が理想像なのです。しかし、予算の関係や人材の問題も存在し、本来皆様が求めている施策については、どうしても全国の地域組合から選出された役員、さらに青年部の皆様方に大きな負担を強いるということになります。

逆説的な言い方をすれば、役員や青年部有志のボランティア活動に依存し運営できていることが連合会という組織にとっては大きな支えでもあるわけです。主要なメーカーからも教育活動の面などで人的なお手伝いもお願いするなど、このような皆様方のご支援そのものが長く連合会存続のベースとなっていました。

私が思いますところ、同業の方々環境は全国一律に厳しく、このような状況の中で自らの貴重な時間を業界の活動につぎ込んでいくエネルギーには頭が下がるばかりです。今、それもなかなか困難なときを迎えつつありま

す。

今回、「複写連改革プロジェクト」という大きな命題を掲げ、平成24年度から新しい連合会組織へと模索をしています。その「新生複写連」の実現のために、冒頭お話をしたように、多くの仲間の支えがあって試行錯誤を繰り返すなか、ここまでこぎつけたところです。いざ！これからが本番です。

◆組織・理事会

まず新しい体制の中で何をするかということで、組織のリニューアルに取り組んでいます。『事業推進委員会』、『教育事業委員会』、『広報宣伝委員会』、『次世代戦略委員会』という大きな柱となる4つの委員会をイメージしました。各委員会の諸事業が円滑に進むようにコーディネートするのが『総務委員会』となります。

それぞれの組織の役割分担は既に「情報と複写」に掲載しています。詳しくは本誌をご一読ください。

ひとつだけ加えたいことは、『次世代戦略委員会』という委員会の考え方です。この次世代戦略という名称自体に私の「新生複写連」という思いが込められています。業界の将来を担う20代・30代の方々を中心に現役世代の先進的メンバーと共に、業態が激しく変化する中で、企業としてのあり方を経営者・幹部社員を包括し、自分たちなりに自分の経営環境そのものを考え、その対応策を実施する委員会として構成したいと思っています。

そこには業界の若手の方々をはじめ、メーカー各社からも委員として参加していただき、今後の業界のあり方、組織・ネーミングや情報交換の方法、その他もろもろの問題点を真剣に討議し、業界の未来を思考して頂けたらなという願いを込めるものです。

私たちの立場で示唆するようなことをせず、私たちは黒子として彼らが面倒なことを陰になりお手伝いするというような組織形態を目指しています。そのためには、現在ある青年部の方々のノウハウや人間関係の繋がりも当然重要な要素となり、蓄積したものを是非有効に活かしてもらうことが早道だと考えています。

組織の変更とともに、理事の選出に当たっては、従来からのブロック選出制度を廃止し、ブロック選出は全国5ブロックの5名までとし、残りの理事の選出はすべて推薦理事としました。厳しい社業をこなされる中で、改革の一端を担うというお覚悟をしていただいた方々を推薦させて頂きました。それぞれの方々に、どういうお立場でご活躍頂けるかが大きな鍵となります。選出された皆様のプレッシャーを思いますと大変な役目をお願いしたものだと思いと、本当に協力の意思を示して頂いたことに心から感謝するばかりです。

所属されている地域組合はもとより、それぞれの組合の所属員の方々が「複写連とは何？」という疑問の声を上げている現実をしっかり見据えて、「複写連は変わった！」という声が聞こえてくるような事業を実現することが新役員に課せられた使命であり、まず手をつけられるところから着手していきます。

◆コミュニケーション

「ホームページの再構築」や「メール情報の配信」は皆様に対して、新しい情報をいち早くお届けする有効な手段となります。いままで、遠い存在であった連合会という組織を身近に感じることができる組織にしていきたいという願いもあります。

そのほかにも監督官庁や関連諸団体、またメーカー各社とのコミュニケーションを深めていくことも連合会に課せられた大きな責務であり、さらにこれからは関係する異業種団体との情報交換や事業連携も井の中の蛙にならないために非常に重要なことです。

◆情報セキュリティ

また、この業界の大きな特徴である、お客様と身近に接触するという業務の性質上、社会で大きく取り扱われるようになった「情報セキュリティ対策」の必要性もいま大きな課題となっています。共通した問題点を共有し、ある程度マニュアル化した仕組みの中で多くの同業の方々が、適切な経費や時間の有効的活用により取得できるような

「ISMS」の構築支援事業も企画します。

◆POD

われわれ業界が新しい業務として確立して行こうと考えている「POD」についてはデジタルに関わる業界の全ての方々の最大の関心事です。この業務体系や価格体系の標準化については、一般財団法人経済調査会・一般財団法人建設物価調査会などと従来からの情報交換をしている延長線上で、引き続き良好な関係を維持・発展させていきます。その連携により、POD提案は複写業界から発信するのが当たり前の世の中になり、その実現が連合会の使命です。

◆ジアゾ商品の消滅

現在の複写業界を見渡すと、価格の問題は深刻さを増しています。印刷業との垣根はすでになく、われわれの原点であるジアゾ商品はこの数年で製品寿命が尽きることが決定しています。平成26年には機器のメンテナンスの終了・感光紙の生産打ち切りという、業界100年の歴史が大きく変化することになり、業界が持っている特徴的な業務では出力をベースとしたワイドフォーマット系のものだけになり、これらのPPC系商品をクライアント側で内製処理するということになれば、業界における基礎的な売上もなくなるという大きなダメージに繋がる事は必至です。

POD商品は、印刷業との競争が激しく、クライアント側ではネットによる発注も今後ますます増加していくでしょう。またその価格体系はわれわれ業界では太刀打ちできないものになりつつあります。従って複写業として今まで培ったお客様との接点の大きさを活かした付加的サービスのあり方などを前面に押し出して、営業のスキルアップを行い商品群を増やすことや、また広範な業種にわたり提案できる企画力などを充実させることがビジネスとしての前進・後退を判断する要素となります。

このような危機的状況を打破するため、業界人の衆知を集めて最後の戦いに挑む覚悟です。

◆官公需適格組合

協同組合が受注し、所属組合員が責任請負する「官公需適格組合受注制度」という官公庁関係業務の受注体制についても様々な問題が山積しています。制度の運用にあたり時代の変化と共に理想の展開が難しくなっているのが実態です。当連合会所属の組合において本制度を実施している組合もいくつかあります。ところが現実には経済産業省が本来考えている施策の目的から逸脱し、競争の原理や公開入札という更に大きな理念の中に、この「官公需適格組合受注制度」が埋没していることも事実です。

しかし、本制度を合理的に運用している組合がある以上、沈滞する経営状況を打破するために、そのノウハウを共有して、努力という物理的な勢いを加え、再度この制度への取り組みを推進するという強い意志を抱くことも組合幹部の方々に求められているのではないのでしょうか。最初から諦めず、制度が存在する以上、その制度を工夫して活用するという前向きな気持ちをもつことで組合経営の活路が切り拓かれます。

◆むすび

業界が抱える問題は、このように数限りなく湧き出しています。今こそ業界にいる方々が結集し、知恵を搾り出すことが求められるときではないのでしょうか？ 今後ともそのような意味で皆様の応援と団結が求められます。

《難局に直面した時、人間はその困難を切り抜けるための感性と智恵を備えている》

私の信念です。

近畿複写産業協同組合の皆様のさらなるご協力・ご支援をお願いいたします。



心からのありがとう

日本複写産業協同組合連合会

前会長 山田修三

2007年10月25日、日本複写産業協同組合連合会宝塚大会が開催されました。それから5年という月日がたちました。思いだせば随分と前のような気もするし、つい最近のような気もします。レトロで雰囲気のある関西を代表する老舗宝塚ホテルが会場でした。同伴の奥様方に大好評だった宝塚歌劇の観劇から始まり、大会会場を取り巻く賛助会員の幟と展示ブース、躍動する若き女性達のチアリーダー、和やかな会食と懇談、それにもまして大会準備期間中の桑田理事長や福味副理事長の全国行脚のプロモーション活動には大いに驚かされました。近畿複写産業協同組合の方々の団結ぶりや業界に寄せる熱さを感じたものです。お陰をもちまして大会は成功のうちに幕を降ろすことができました。

あらためて、近畿複写産業協同組合の皆様方に「心からのありがとう」を申し上げます。

私は複写連会長を6年間つとめました。その間、今期で退かれた六藤相談役、桑田理事には大変お世話になりました。特に六藤相談役には業界の大先輩として、長年にわたって複写連運営にかかる諸問題について適切なお助言とお支援をいただきました。また桑田理事におかれましては、理事会でのはつとするような発言や提案には驚きましたが、その発言の精神は新しい複写連改革に大いに活かされています。

六藤相談役、桑田理事、心から感謝申し上げます。

佐々木理事、満田理事、河村理事、楠本副会長には、引き続き複写連運営にお力を貸していただけたとのことです。近畿複写産業協同組合の四人の理事の皆様方には、森下新会長を支えて、業界の未来のためにより一層の活躍をお願いするものです。

今期より私は、監事として引き続き複写連に関与します。監査される側から監査する側になります。業界発展への思いはいまも持ち続けています。少し気楽な気分で複写連全体を見渡しながら、業界発展のために言うべきは遠慮なく言い、さらに業界が発展するように役割を果たします。

6年間支えてくださり、心から感謝いたします。ありがとうございました。

末筆ではございますが、近畿複写産業協同組合の益々の御発展、ならびに組合員の皆様方の御健勝と御繁栄をお祈り申し上げます。

次世代へ、未来へ

組織と世代の連携

日本複写産業協同組合連合会

副会長 楠本雅一

2012年6月28日、日本複写産業協同組合連合会(以下・複写連)第27回通常総会が東京浜松町にて開催されました。本総会



におきまして、森下修至アイ・エム・エヌ協同組合理事長が満場一致で新会長に推薦され御就任いただきました。あわせて、近畿複写産業協同組合からは楠本、満田専務理事、佐々木理事、河村理事にも複写連理事に推薦され、理事として下記委員会の事業を担当することとなりました。

●楠本雅一:複写連副会長・次世代戦略委員会副委員長

⇒複写連事業全般において会長を支え次世代を育成する

●満田創:事業推進委員会副委員長

⇒複写連の事業を地元協同組合に展開する

●河村武敏:教育事業委員会委員長

⇒教育事業を企画し、事業推進委員会と共に全国に展開する

●佐々木洋之:総務委員会副委員長

⇒総務・財政面で事務局を補佐し、会長を支える

今回の複写ニュース複写連総会特別号に森下新会長から熱いメッセージを寄稿していただきました。この会長の熱い思いを受けて、かかる大役をお引き受けいたしました。森下会長から与えられた私の役割は「複写連事業の企画立案」「賛助会員様との戦略的提携」「次世代(組織)の再構築」などです。私は業界の事業を企画する時、つねに次世代業界人の笑顔を思い浮かべます。このことは森下会長もまったく同じです。次世代に業界を継承したいという強い思いが森下会長と私の業界活動の原動力であり動機です。

業界を代表する複写連も全青連時代から言えばすでに50有余年を過ぎました。先達に守られ育てられて今があると言っても過言ではありません。しかし、昨今の厳しい経営環境のもと、私達を育ててくれたこの業界を次世代に継承できるのかが大きな問題です。昨年実施した全国一斉ヒアリングの結果では、後継者については30%が具体的にお名前を示され、検討中と回答された方も40%弱あります。すでに承継をすまされた若い経営者を加えると、実に80%以上の方々が事業の継承を果たしたか、後継者への事業継承を決意をしています。私たちの組合における回答では20名以上の具体的なお名前をいただきました。次の時代を託する方々にも、業界組織一協同組合・複写連は存在するのだとあらためて確信しています。私たちに続く世代を育成すること。そのために後継者たちが勇気を持って経営にあたることのできる第三世代の事業を確立すること。その事業環境を整備していくことが業界組織の使命であり、複写連事業の根っ子と幹を成すものです。

全国組織としての複写連。地方組織としての私たちの近畿複写産業協同組合。二つの組織は互いに補完する関係です。業界全体に影響を与える事業や交渉は複写連の役割です。複写連の会員は各協同組合であり、各地域の協同組合に事業というサービスを提供し、組合活動を支援することが重要な役割です。一方、近畿複写産業協同組合をはじめとする地域の協同組合は、地元に着し直接組合員様に働きかけて支援をすることが役割です。しかし中央政府が絡む事案や、メーカーと連携しての市場創造のような活動には地域の協同組合には不向きであり、全国組織の複写連に負うところが大きいです。つまり、二つの組織はそれぞれの役割を分担し、さらに世代間の強い連続性と連携があつてこそ、業界は「次世代へ」「未来へ」と続いていきます。複写連におきましても、近畿複写産業協同組合におきましても、この言葉にこそ大義が存在し、また目指すものは全く同じ軌跡の先に在ります。

私たち四人は複写連事業運営に参加し、微力ながら近畿複写産業協同組合の皆様方、そして全国の組合員(所属員)の皆様方にお役に立てるように最善を尽くします。さらなるご指導とご鞭撻をお願いいたします。

河村武敏教育事業委員会委員長

このたび複写連理事・教育事業委員会委員長に選任されました河村です。
近畿複写産業協同組合においても教育事業を任命されており、先日からメーカー様3社の多大なるご協力のもと、近畿地区での教育がやっと始まったというのが実感です。
ましてや全国規模の教育となれば、一層責任も重大で、何から取り掛かってよいのか暗中模索の状況です。
メーカー様との関係においては、やはり関東地区が本社所在の関係で一番つながりが強いと思われま
す。
逆に地方都市になると、セミナーの開催等についても都市部と比べると少ないのではないか？経営
者、ミドルマネジメント、若手社員等、その教育機会の格差も大きいのではないかと考えています。
もちろん都市部とその他地域は、お客様も市場も異なることも現実です。
そのような中、やはり複写連としては、全国規模でできる限り機会均等な教育機会をつくるのが使命
と考えています。
わが業界が将来に向けて、事業継続可能な発展的な業界になっていくために。ともに学びモチベーシ
ョンを持てる機会をつくることから始めていきたいと思えます。
小さいことからコツコツと一歩ずつ、地道な努力がないところに成功の道筋はありません。
皆様のご指導のもと、よろしくお願ひ申し上げます

満田創事業推進委員会副委員長

今年度の日本複写産業協同組合連合会（複写連）の理事に初めて選任させて頂きました満田です。
複写連は今年度より新会長の森下修至会長体制がスタートしました。
会長は『複写連改革プロジェクト』という命題を掲げられ新しい連合会組織を模索されて幾つかの機
能別のプロジェクトを推進されます。私は初めての理事就任でありながら、そのプロジェクトの一つ
である【事業推進委員会】の副委員長の大役を仰せつかった次第です。
事業推進委員会は朝香雅文委員長の方針を支え、複写連事業を各地区の協同組合様へ展開・推進し、
更に厳しさを増す経済環境・市場環境を打破する為にも全国の叡智と過去の経験を共有する必要があ
ると感じていますし、その事も担当と想います。
近畿複写産業協同組合の先輩役員の楠本理事長、佐々木理事、河村理事に運営の基本をご指導戴くと
共に、前任の桑田副理事長にもご指導、ご鞭撻を戴き責務を果たして行く所存ですが何分にも初めて
であり立場を全う出来るかと不安が先行する次第です。
結びに近畿の皆様にもご理解を戴きご指導とご協力を宜しくお願ひを申し上げます。

佐々木洋之総務委員会副委員長

この度、複写連理事・総務委員会副委員長に選任されました佐々木でございます。山田前会長のもと
2期4年、総務財政委員長を務めて参りました。本来はここでお役御免となるべきところ、森下新会
長と楠本理事長のご推挙により、引き続き総務担当として事務局の裏方を務めさせていただきます。
近畿複写産業協同組合の皆様のご指導・ご支援をお願い申し上げます。
地域・全国を問わず、中小企業の業界組織が曲がり角に来ていると云われて久しいこのとき、複写連
は新たな体制・新たなコンセプトで始動しました。森下新会長のメッセージにあるように、まさしく

その真価が問われることとなります。副会長の重責を担う楠本理事長をはじめ、近畿選出の役員の方々がその力量を十分に発揮され、当組合にとって価値ある複写連となりますよう、全力でお支えする覚悟でおります。これからもよろしくお願い申し上げます。



日本複写産業協同組合連合会
 第27回通常総会・次第
 日 時：平成24年6月28日(木) 13:30～15:30
 場 所：浜松町 東京會館(ゴールドルーム)

会 長 山 田 修 三

1. 会長挨拶
2. 議長選任
3. 定足数確認

4. 審議事項

第 1 号議案 第27期事業報告(案)および決算関係書類(案)承認の件
 事業報告書
 事業の状況
 決算関係書類
 監査報告書

会 長 山 田 修 三
 会 長、委 員 長
 総 務・財 政 委 員 会
 監 事 齋 藤 隆 正

第 2 号議案 第28期事業計画(案)、収支予算(案)並びに
 経費の賦課及び徴収方法(案)決定の件
 事業方針(案)
 事業計画(案)
 収支予算(案)
 経費の賦課
 及び徴収方法

副 会 長 森 下 修 至
 副 会 長 森 下 修 至
 総 務・財 政 委 員 会

第 3 号議案 第28期における借入金残高の
 最高限度(案)決定の件

総 務・財 政 委 員 会

第 4 号議案 役員報酬(案)決定の件

総 務・財 政 委 員 会

第 5 号議案 理事及び監事選挙の件

総 務・財 政 委 員 会

5. 閉会挨拶

近畿複写産業協同組合
 理 事 長 楠 本 雅 一



日本複写産業協同組合連合会 第28期 役員名簿

複写連役職	氏 名	所属組合	組合役職
代表理事会長	森 下 修 至	アイ・エム・エヌ協同組合	理事長
兼 次世代戦略委員会委員長			
理事副会長	齋 藤 隆 正	関東複写センター協同組合	理事長
理事副会長	楠 本 雅 一	近畿複写産業協同組合	理事長
兼 次世代戦略委員会副委員長			
理事 総務委員会委員長	上 田 良 信	アイ・エム・エヌ協同組合	副理事長
理事 事業推進委員会委員長	朝 香 雅 文	関東複写センター協同組合	副理事長
理事 教育事業委員会委員長	河 村 武 敏	近畿複写産業協同組合	理事
理事 総務委員会副委員長	佐々木 洋 之	近畿複写産業協同組合	理事
理事 事業推進委員会副委員長	満 田 創	近畿複写産業協同組合	専務理事
理事	丸 山 一 彦	北海道複写産業協同組合	副理事長
理事	細 井 武	関東複写センター協同組合	副理事長
理事	早 坂 淳	関東複写センター協同組合	複写連
			青年部会長
理事	田 本 芳 樹	東海複写産業協同組合	理事長
理事	渡 邊 聖 太	福岡複写産業協同組合	理事長
理事	安 武 洋 一 郎	熊本県複写産業協同組合	専務理事
理事	鈴 木 嘉 仁	広域所属員(株工陽社)	
監事	山 田 修 三	北海道複写産業協同組合	理事長
監事	後 藤 眞	関東複写センター協同組合	理事

平成24年6月28日



編集後記

私、日本複写産業協同組合連合会を担当して5年。この6月をもちまして交代と相成りました。担当中、複写連関係各位並びに近畿複写産業協同組合関係各位そして賛助会員関係各位にはご支援賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。複写連は、これより新しい体制で、大きな目標「変革」を掲げ、業界を牽引して行こうとしています。近畿複写産業協同組合会員各位も「新生・日本複写産業協同組合連合会」に注目し、且つ応援下さるようお願い致します。（記 桑田）

暑中お見舞い申し上げます。いよいよ夏本番。夏に美味しい果物と言えば西瓜ですね。西瓜にはアミノ酸シトルリンという物質が含まれ老廃物の排泄が促進されたり血管拡張作用も手伝って血圧を下げる効果も期待できます。又赤いリコピンは万病の元である悪玉の酸素「活性酸素」を消去してくれる優れた抗酸化作用も持っているとか。身近な食物で健康維持に努めて夏を乗り切りましょう～

（記 小野）

